



BS契約ライダーとなった青木さんは、MFJの会報誌である「ライディング」の表紙を飾っている。元々ロードレース志望で、泥などに汚れることが嫌だった(?)青木さんは、当時の自分出来るモータースポーツはモトクロスしかなかったから、あれほどまでに熱中したと振り返る。先行車の跡を上げる泥で汚れたくないこともあり、レースは先行逃げ切りの展開が多かったという。無論それはライダーなら万人が望む展開だが、それを可能にするだけの努力を積みおと、天性のライダーとしての才が青木さんにはあったのだろう。



上の写真は、1965年3月7日に開催されたモトクロス四国地方選手権50ccクラスで、ランペットに乗り優勝した青木さん(中央)が仲間たちからの祝福を受ける図。下は50ccクラスのスタートシーン。ランペットのほかには、ホンダスポーツカブC110などの姿が見える。青木さんによると当時の四国では暗黙の了解的に、4ストロークのC110はボアアップした車両の参加が容認されることが多かったそう。50ccのままならC110はランペットの敵ではなかったが、60ccくらいになると低速域のトルクの厚みが活きてきて、なかなか手強くなったという。



2011年10月末に、群馬県軽井沢のペンション シルバーストンで行なわれた、BSライダーOB会の記念写真。青木さんは後列右からふたり目。当時のレースチームは上下関係が厳しい組織がほとんどだったが、BSレーシング=イエローヘルメットはフレンドリーなチームで、高知育ちのネイチャーボーイだった青木も随することなく、のびのびとレースを楽しめたという。青木さんにとってペンションオーナーの鈴木健夫さん(トローハツ、BS、カワサキのレースチームで活躍)、タケちゃんと呼び慕う兄のような存在だそう。



ずっと高知在住の青木さんは、気の置けないバイク仲間たちに囲まれて暮らしている。左から平田雷(ふかし)さん、長尾海平さん、そして依光邦法さん。

Meet the runpet people.

江 戸末期の英雄、坂本龍馬の出生地である高知市上町で生まれ育った青木さんが、ランペットスポーツ50を購入したのは、1962(昭和37)年3月のことだった。地元で行なわれたモトクロスを初めてその目で見て感動し、これは自分もやらないといかん、と奮い立ったのが購入の動機という。

ランペットを入手してからの青木さんは、時間があればランペットを駆ってモトクロスの練習に動んだ。練習場所は自宅からほど近い鏡川の中州や、子供の頃から趣味の化石採掘のために通い慣れた山だった。当時の四国にもモータースポーツに接する人はいたが、その数は本州に比べればはるかに少なかった。いわゆるレースの先輩が少なかったため、腕は自己流で磨くしかなかった。

それなりに走れるようになったのではないかと、自信が付き始めたこともあり、青木さんは第一回高知県オートレースにエントリーした。そして迎えた11月23日、青木さんは人生初のモトクロスで見事3位に入賞する。その後1963年から1965年までの3年間、決して裕福ではなかったプライベートの青木さんが出場できたのは四国内の、開催回数も少なかったモトクロスイベントに限られたが、1963年の第一回四国地方選手権(香川)での4位以外は優勝を含め、すべて表彰台に上る活躍ぶりだった。

ランペットに乗る青木さんに負け続けることが、他メーカーにとって芳しいことではないことは容易に想像がつくだろう。当時はレースでの成績と人気が、バイクの売れ行きに対してダイレクトにリンクしていた時代だった。1964年初頭に倒産しているメ

ーカーのマシンに勝たれることは、他メーカーには屈辱以外の何物でもない。この状況を彼らが覆すために最も手っとり早い手段は、青木さんをスカウトし、味方にしてしまうことだった。

好条件を提示され、青木さんは新興メーカーだったブリヂストンが組織した、四国BSレーシングに1966年から加入することになった。チームの一員となってから2戦目に当たる、4月3日の第3回MFJモトクロス日本GP(香川県五色台)は、四国では初めてのとなる全国大会だった。この記念すべき一戦で青木さんはBS50に乗り優勝する。そしてこの勝利を含め、地方選やMCFAJ全日本選手権にも出場した青木さんは、6戦12レースで6度の優勝を同年BSにもたしている。

契約の終了をもってBSから去った青木

さんは、1968年ころからは4輪のレース活動をスタートさせた。主に岡山県の中山サーキットを舞台に、1970年代はスズキプロンテ、1980年代はフォーミュラのFL-Bで通算49勝と大活躍した。なおFL-Bクラスでは1986、1987、1988年と、3年連続でシリーズチャンピオンに輝き、西日本を代表するドライバーとなった。

なお、ここまでの頁で紹介したランペットシリーズ各車は、いずれも青木さんの所有車だ。一台でも多く、ちゃんと本来の性能を発揮するランペットを残したい、と願う青木さんは、現存するランペットシリーズの把握のため、保存会を立ち上げることを考えているとのことだ。また近い将来、自身の経験と技術をランペットやBSを愛する人に役立ててもらうべく、趣味のショップを始めたいとも考えているそうだ。

ランペットと青春を過ごした

青木健一郎さん

ランペットに乗って、ロードレースやモトクロスで活躍し、キャリアアップのきっかけをつかんだライダー/ドライバーは多い。ここに紹介する青木さんも、そんなライダーのひとりだ。

1946(昭和21)年生まれ。ランペットでの活躍を経てBS契約ライダーとなり、モトクロスで活躍。

青木さんの提唱する「ランペット保存会」に関心ある方は、下記お問い合わせ先に連絡していただきたい。

住所: 高知県高知市上町3-11-4 TEL: 088-822-0504